

◆二十六番（荻田義雄）（登壇）議長のお許しをいただきまして、自民党奈良を代表いたしまして、平成二十九年度予算、今定例会に付議されております議案につきまして、知事にご質問をさせていただきたいと思っております。

次に、リニア中央新幹線の整備促進についてお伺いをいたします。

リニア中央新幹線の整備につきまして、昨年八月に政府が取りまとめた経済対策において、財政投融资資金の手法を活用することにより、全線開業を最大八年間前倒しすることが明記され、今年度と来年度に一・五兆円ずつ、総額三兆円のJR東海への融資が予定されています。リニア中央新幹線は全線開業してこそ、その効果が最大限に発揮されるものでございますし、この動きを大いに歓迎するものであります。

リニア中央新幹線の整備は、東西大動脈の二重系化、東京・名古屋・大阪の三大都市圏の一体化、地域の活性化など、世界最大の巨大都市圏の新たな可能性の発揮が期待される国家的プロジェクトであり、本県にとっても県経済の活性化に大きく寄与する一大プロジェクトであります。

将来的なまちづくりの検討や事業の促進に向けた環境整備を行うためにも、三重・奈良・大阪ルート及び奈良市附近駅の早期確定が何よりも重要な時期となってまいりました。

そこで平成二十八年度には県内の動植物の生息状況等について調査を実施されましたが、その現在の状況と、今後のリニア中央新幹線に対する取り組みについてお聞かせください。

◎知事（荒井正吾）（登壇）二十六番、荻田議員のご質問にお答え申し上げます。

次は、リニア中央新幹線の整備促進についてのご質問でございます。

県では、リニア中央新幹線の整備促進に向け国などへの要望活動を実施するとともに、将来、JR東海から協力を求められた場合に十二分な役割を果たせるよう、さまざまな取り組みを進めているところでございます。

今年度は、JR東海が将来実施する環境アセスメントを見据え、県内の動植物の生息状況等について調査を行っているところでございますが、今月末に調査結果を取りまとめることとしております。

具体的な動植物の希少種の生息地や渓谷などの自然景観資源、保安林等の位置を把握した上で、線路・附帯施設の建設による影響について調査等を行っているところでございます。

これらは、JR東海がリニア中央新幹線のルート及び駅位置を検討する際に参考になると考えられる要素でございます。県において先行的に調査することで、将来のJR東海の検討がスムーズに進められるよう県として、しっかり準備を進めておきたいと考えているところでございます。

来年度は、リニア中央新幹線の駅と国際拠点空港の間のアクセスの利便性を十分に確保

するための方策として、奈良市附近駅と関西国際空港を結ぶ高速鉄道路線について調査を進めたいと考えております。

これは、昨年十一月、与党北陸新幹線敦賀・大阪間整備検討委員会において私が提案いたしました将来ルート構想について調査を進めるものでございます。関空インバウンド需要を取りこむことにより、リニア中央新幹線の価値を飛躍的に高めることができるものと考えています。構想の具体化に向け、県として調査を進めるとともに、関係者に対する働きかけを行ってまいりたいと考えております。